

平成26年10月31日(金)

老球の細道77号

夢がなければ1秒たりとも生きてはいけない

会津バスケットボール協会理事長 室井 富仁

教員をやっていた頃、「先生の人生で1番大切なものは何ですか？」という質問をされたことがあった。私は迷わず「夢」と書いてしまった。しかし、書いた後後悔してしまった。もっと大切なものがあったのでは……。家族、お金、名誉、愛……。

4年前の話である。新聞にある銀行の広告が載っていた。そこには2人のスポーツ選手のメッセージが述べられていた。それを読んで、わが意を得たり。後悔したことを恥じた。それにしても恐るべし新聞広告。

【夢を持ち続けにくい時代だと人は言う。本当にそうか。

「絶対ムリだって、何度言われたことか」

誰もが、サッカー少年・中澤佑二のプロになる夢を、本気にしなかった。

「みんな言ってた。その身長じゃ通用しないって」

誰もが、バスケット少年・田臥勇太のアメリカでプレーする夢を、応援しなかった。

「運命は自分で変えられる。そう信じていた」

中澤は、高校卒業後、単身ブラジルへ。

帰国後、さらに1年間練習に打ち込み、プロのチャンスを手に入れた。

「日本人でもやれるってことを、証明したかった」

田臥は、173センチの身長でありながら、渡米して多くのチームで実績を重ね、日本人として初めてアメリカトップチームのユニフォームを手にした。

「南アフリカで勝ちたい。勝って、日本の子どもに夢を届けたい」

FIFAワールドカップに出場する中澤は、いま、新たな夢を追いかけている。

「生涯現役でプレーしたい。日本のバスケットボールをもっと盛り上げたい」

田臥もまた、リンク栃木ブレックスで新たな夢へと挑んでいる。

どんな感動も、どんな未来も。人は夢を持ち続けることで、かなえてきた。

中澤と田臥の姿は、これから何人の人に、夢を与えていくのだろう。

夢を持ち続けにくい時代だと人は言う。

本当にそうか。】

……朝日新聞広告より……

食べ物なしで生きられるのは40日間、水がなかったら3日間、空気がなかったら4分間だが、夢がなかったら1秒も生きていられない。